

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

唄を忘れた金糸雀は
うしろの山に棄てまし
よか。いえいえ、それ
はなりませぬ。大正7
年創刊された児童雑誌
『赤い鳥』に楽譜付き

掲載された西條八十が
作詞した童謡「かなり
や」は童謡創作が盛ん
となるきっかけとな
り、今年「童謡誕生1
00年」を迎えた。
懐かしき歌との出会
いが9月上旬の白馬村
退職者との旅で実現す
る事が出来た。訪れた
のは、中野市にある高
野辰之記念館。高野辰
之さんが学び、教鞭を
とった永江学校・永田
尋常小学校の後身の永
田小学校の跡地に、博
士の業績をたたえた記
念館だ。どこか懐かし
い風景に好感が持て
る。初めて訪れた記念
館の外観は、母屋と土
蔵を連想させる伝統的

な民家のイメージ。旧
豊田村に明治9年に生
まれ育ち、東京に出て
日本の歌謡史・演劇史
の研究や「故郷」を始
め、「朧月夜」「春の小
川」「春が来た」「紅葉」
など多くの文部省唱歌
の作詞など郷土の誇る

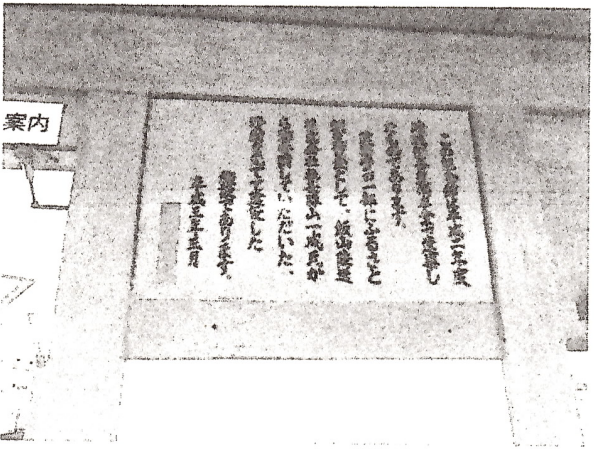
中心とした軽工業から
重工業に産業構造の転
換を実現した時代。こ
の産業革命の進行は、
都市の工業化を促し都
市部への人口集中とい
う、人々の生活から「ふ
るさと」を奪っていつ
た時期でもある。

「このころのふるさと」
をうたったのだと、想
わず歌詞を口ずさんで
しまう。最後の歌詞で
「志を はたして い
つの日にか 帰らん
山は 青き 故郷 水
は 清き 故郷。志
を遂げて故郷に錦をと
る」とある。

地域の物語を価値あるものに 育むには故郷の情景が大切だ。

思い巡らす
人づくり
は、昔前
の考え方
のかと、なぜか寂しさ
を感じてしまう。
明治の先駆者、福沢
諭吉は「学問の道に於
いて談話演説の大切さ
は明白、学問の要は活
用にあるのみ」と教え
た。高野さんはこの教
えを、身をもって実践
した人物だ。東大文学
部での講義は、派手な
血湧き肉躍る内容で、
大学の講義は退屈との
相場を打ち崩し盛況
だったとの講義をぜひ
受けてみたかったと展

示内容を読みながら、
強い親近感を覚えた、
素晴らしい旅の1日だ
もあった。
(NPO法人信州地域
社会フォーラム理事・
白馬村森上)



1億円寄付との情報。地域の文化を継承させる
には、地域関係者の支援も欠かせない。